

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 飛驒牛産肉能力検定事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 4,221千円（現計予算額：41,668千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	41,668	0	0	0	41,668	0	0	0	0
補 正 要求額	4,221	0	0	0	4,221	0	0	0	0
決定額	4,221	0	0	0	4,221	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・「飛驒牛」は本県の観光産業にも大きく寄与しており、全国的にトップブランドとして認知されてきている。
- ・この飛驒牛ブランドを支える大きな要因として、高能力種雄牛の存在は欠かせない状況にある。
- ・今後、飛驒牛ブランドを更に確固たるものに発展し県内産業を支えていくためには、飛驒牛の特徴形質を具現化できる高能力種雄牛の造成が継続的に必要である。
- ・このため、本事業において、種雄牛造成の中心的部分である種雄牛産肉能力直接検定及び現場後代検定を実施する。

【9月補正】各種飼料単価の高騰に伴う飼料費の増額

子牛相場の高騰による試験牛購入費の増額

(2) 事業内容

- ・種雄牛産肉能力直接検定事業（飼料費） 5,793 千円（△799 千円）
- ・現場後代検定事業（飼料費） 7,347 千円（+2,909 千円）
- ・試験牛購入（備品購入費） 25,602 千円（+2,111 千円）

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
飼料費	2,110	トウモロコシ価格上昇による増
備品購入費	2,111	試験牛の購入
合計	4,221	

決定額の考え方

事業評価調書

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
「飛驒牛」のブランド力強化と安定生産を行うため、継続的な高能力種雄牛の造成を中心に飛驒牛改良を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
直接検定 (検定牛頭数)	(H)	10 (H29)	7 (H30)	10 (R1)	10 (R3)	100%
後代検定 (検定セット数)	(H)	3 (H29)	3 (H30)	3 (R1)	3 (R3)	100%

○指標を設定することができない場合の理由

—

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・枝肉研究会を開催
 - R2. 11 宗光清 枝肉研究会開催 60名出席予定
 - R3. 1 茂勝真 枝肉研究会開催 60名出席予定
 - R3. 3 勝辰平 枝肉研究会開催 60名出席予定
 - ・後代検定3セットの開始：柊富士、藤健翔、泰山北斗
 - ・先行交配3セットの実施：勇福平、元景虎、花清535の21

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・令和元年度に枝肉成績が判明した種雄牛3頭（「安俊晴」「吉良李」「寿福光」）については、目的どおりの産肉成績が得られた。「安俊晴」「吉良李」は12頭の基幹種雄牛に繰り入れることができた。
 - ・令和2年度中には上記3頭の次の世代の種雄牛候補である「宗光清」「茂勝真」及び「勝辰平」の枝肉成績が判明する予定であり、飛驒牛ブランドをけん引する次世代の種雄牛の造成が期待される。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者一体となり種雄牛を造成していることから、引き続き県が責任を持って種雄牛造成を担うと共に、「飛驒牛」の特徴の改良が期待できる次世代の種雄牛造成が早急に望まれている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに「安福」の後継種雄牛として「花清光」及び「広茂清」などの高能力種雄牛が順調に造成できた。また、現在「花清光」及び「孝隆平」を1代祖に持つ産子が県内子牛市場に多数上場されている。その効果もあり、岐阜県の和牛子牛取引価格は、令和元年次も堅調に高値を維持し、飛驒牛ブランドで取り引きされる枝肉単価も全国平均より高い価格で推移している。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産研究所のみで産肉能力検定を実施するのではなく、県内の繁殖・肥育農家や、市村及び全農・JA等関係各機関の協力も得ながら産肉能力検定を実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・全国的な子牛の高価格取引状況は継続しており、検定牛の(生産者からの)買取価格は市場価格に連動して随時見直しを行い、設定してきている。この産肉能力検定事業を円滑に実施していくためにも、適切な買取価格の設定が必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか。 ・県内和牛繁殖農家からは「飛驒牛」の特徴を維持し、また改良が期待出来る種雄牛造成の要望があると共に、安福系雌牛に交配可能な次世代の種雄牛の計画的な造成が期待されている。引き続き畜産振興課担当の「飛驒牛改良推進事業」と連携しながら、種雄牛造成方針に基づいた種雄牛造成を維持・推進する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	—
組み合わせる理由や期待する効果 など	—

